

第5期

中間事業報告書

平成15年1月1日 ▶ 平成15年6月30日



アンジェス エムジー株式会社

証券コード4563

Top Interview

トップインタビュー



代表取締役社長 山田 英

米国でHGF遺伝子治療薬の臨床試験が始まりました

Q この半年間を振り返って、プロジェクトごとの進捗状況をお伺いしたいと思います。まず、HGF遺伝子治療薬について教えて頂けますでしょうか。

A まず、足の血管が詰まる病気の末梢性血管疾患の開発状況につきましては、年明けに米国FDAから、幸いにもフェーズIIから始めてもいいとのご承認を頂きまして、この4月から実際に米国で臨床試験が開始されるに至っております。

日本では、臨床試験の準備をしているところで、遅くとも年内には臨床試験を開始したいと心掛けています。

一方、心臓の冠動脈の血流が悪くなる虚血性心疾患につきましては、現在、臨床試験の準備段階にあり、前臨床試験のデータを取りまとめているところです。早々にFDAにIND (Investigational New Drug、治験薬) 申請をして、来年には米国で臨床試験を始めたいと考えています。

パーキンソン病につきましては、マウスの病態モデルを用い

た大阪大学の研究によって、HGF遺伝子治療薬が有効であることが確認されました。具体的な開発計画につきましては、今後、前臨床試験を実施しまして、どのような形で臨床試験を進めるべきかというところを、検討していきたいと考えています。

また、HGF遺伝子治療薬の特許につきましては、当社が出願していた特許が日本で成立し、7月に公表されました。これで、日本におきましても、パテントの状況がとて強くなってきました。海外におきましても、米国では既にこの特許が成立していますし、同様に欧州や他の国々でも特許出願しており、審査を受けているところでございます。

Q 次に、NF κ Bデコイオリゴの進捗状況について教えてください。

A NF κ Bデコイオリゴにつきましては、5月に株式会社グッドマン（以下、グッドマン）と提携をさせて頂きました。この提携の領域としては、NF κ Bデコイオリゴの一つの対象疾患であります血管再狭窄の予防ということでした。グッドマンは昨年、米国のアヴァンテック・ヴァスキュラー社を買収されまして、特に血管領域での再狭窄の予防を中心とした研究開発に注力されていますが、私どものNF κ Bデコイオリゴが血管の再狭窄の予防に有効であるということに着眼されまして、グッドマンのステントにNF κ Bデコイオリゴを載せるということで、血管再狭窄の予防のプロジェクトを一緒に進めてくださることになりました。このプロジェクトは、今、動物実験のステージにあります。今後、臨床試験を進めていく予定です。



アトピー性皮膚炎につきましては、昨年来、提携先の探索を続けているところですが、私どものポリシーを尊重して頂けることを前提として交渉を進めております。

関節リウマチにつきましては、生化学工業株式会社と共同開発の契約のもとに、研究開発を進めさせて頂いておりますが、さらに臨床試験に進むべく、今、前臨床試験を進めています。

Q HVJエンベロープベクターの進捗状況について教えてください。

A HVJエンベロープベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）につきましては、3月に大阪大学大学院医学系研究科の金田安史教授、株式会社島津製作所との間で、共同研究契約を締結いたしまして、ご一緒に、新しい遺伝子の探索を進めているところです。私どもにとっては、基本的に遺伝子治療薬、遺伝子医薬になりうるシーズの探索活動をする大切なプロジェクトになります。ただし、低分子化合物としての開発の可能性が出てきた場合には、興味がある製薬会社にライセンスすることも考えています。このような病態に関わる新しい

遺伝子の探索にはこれから一層力を入れていきたいと思っています。

HVJ-E非ウイルス性ベクター事業に関しては、当社の事業の三本柱の一つとして、創業以来、製造技術の確立などを目指した研究開発活動を実施してきましたが、昨年4月に提携先の石原産業株式会社から遺伝子機能解析用キットが発売されるに至っています。さらに、昨年11月、GMP（Good Manufacturing Practice、医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準）に準拠したHVJ-E非ウイルス性ベクター製造用パイロットプラントを、産業技術総合研究所関西センターのなかの池田ラボ内に建設させて頂き、遺伝子治療用ベクターやドラッグデリバリーシステムとして医薬品分野に応用する研究を進めています。一方で、昨年7月に、新しい遺伝子を探索することを目的として、連結子会社ジェノメディア株式会社（以下、ジェノメディア）を設立しました。これは、遺伝子治療や遺伝子医薬のシーズを発掘するという当社に欠かせないプロジェクトになりうると期待しています。こうした状況のなか、この9月に、会社分割制度を用いてグループ内で組織再編させて頂きました。今回の組織再編は、当社グループ内（当社とジェノメディア）に分散するHVJ-E非ウイルス性ベクター事業に関連する人材、資産、知的所有権を、ジェノメディアに集約化し、経営資源の効率的な利用と、経営判断の迅速化を目指し、当社グループとして、このプロジェクトをさらに強化するために行ったものであります。

Q 最後に株主の皆様一言お願い致します。

A この中間期の連結業績は、事業収益1,274百万円、経常損失360百万円、中間純損失363百万円という結果になりました。皆様方もご存知のように、当社は研究開発という先行投資の時期にございまして、このような業績の報告を申し上げる次第です。一方で、研究開発の状況につきましては、米国でHGF遺伝子治療薬の臨床試験を始めるなど、新しいステージに入りつつあります。この研究開発の状況については、私どもの最重要事項と認識しており、株主の皆様方には、これからもできるだけつぶさにご報告していく所存ですので、引き続き、ご指導、ご鞭撻くださいますようお願い致します。



Main Project

主要プロジェクト

1

HGF遺伝子治療薬

HGF (Hepatocyte Growth Factor、肝細胞増殖因子※1) は、肝臓の細胞を増やす因子として1984年に大阪大学の中村敏一教授により発見されました。最初は、肝臓の病気の治療薬として研究されていましたが、HGFの遺伝子を投与することで血管を新しく増やすことができることも1995年に大阪大学の森下竜一客員教授により明らかにされました。HGF遺伝子治療薬は、血管が詰まり血流が悪くなっている病気に対して、新しい血管を作るというこれまでにない治療法を提供します。

血管が詰まることにより生じる病気には、例えば、糖尿病などにより足の血管が閉塞し、血液がうまく届かず壊死して最終的には足を切断しなければならなくなる末梢性血管疾患※2 (閉塞性動脈硬化症やバージャー病) や、心臓の冠動脈の血液の流れが悪くなって起こる虚血性心疾患※3 (狭心症や心筋梗塞) という病気があります。これらの病気は、重症になれば、薬物療法のほか、バルーンカテーテルやバイパス手術を施しますが、それでも十分に回復しない場合があります。このような状況のなか、HGF遺伝子治療薬は他に治療法がなく足を切断せざるを得ない患者さんに対しても、注射という簡便な方法で新しい血管を作って治療することができます。

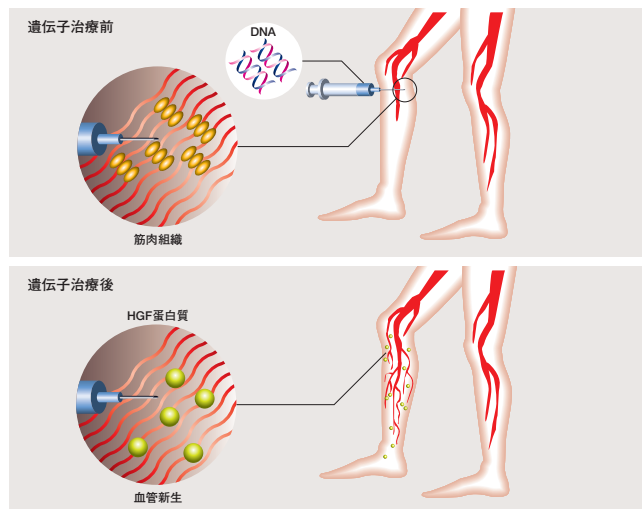
このような血管新生療法は、米国では、VEGF (Vascular Endothelial Growth Factor、血管内皮細胞増殖因子) やFGF (Fibroblast Growth Factor、線維芽細胞増殖因子) を用いた遺伝子治療の臨床試験が行われ、遺伝子治療により血流が回復して足の切断を免れた症例が報告されるなど、有効性が確認されつつあります。HGFは、これら競合の遺伝子治療薬より血管新生作用が強いことが動物実験で示されており、しかもVEGFで見られる浮腫の副作用が見られていないことから、有効性と安全性の両面で競合品と差別化できると考えています。

末梢性血管疾患については、現在、米国で第二相臨床試験を

実施中で、日本では臨床試験の準備を進めています。虚血性心疾患についても、米国で臨床試験の準備を進めています。

なお、HGF遺伝子治療薬の末梢性血管疾患及び虚血性心疾患分野については、第一製薬株式会社と販売提携しています。

注射によるHGF遺伝子治療 (末梢性血管疾患)



用語解説

※1 肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth Factor: HGF)
肝細胞から発見された増殖因子で、血管新生作用を有する他、発生過程における器官形成や傷害に伴う組織・器官の再生において重要な役割を担います。

※2 末梢性血管疾患 (peripheral arterial disease)
四肢の末梢血管が閉塞することにより、筋肉や皮膚組織が虚血状態に陥り、しびれ、冷感、間歇性跛行、安静時疼痛、下肢潰瘍などの症状を示します。閉塞性動脈硬化症やバージャー病があります。

※3 虚血性心疾患 (ischemic heart disease)
心臓を養う動脈 (冠動脈) がある程度狭窄すると、労作時に十分な血液が流れず、胸苦しさや胸痛などの症状を示す狭心症や、冠動脈が完全閉塞し、心筋組織が虚血状態になる心筋梗塞があります。

2

NF κ Bデコイオリゴ

遺伝子医薬には、大きく分けると二つの方法があります。一つは、HGF遺伝子治療薬のように遺伝子そのものを利用する遺伝子治療薬、もう一つは、核酸合成機で作成される人工遺伝子を利用するものです。後者は、遺伝子そのものを使うのではなく遺伝子の構成成分の一部のみを使うので、人工遺伝子と呼ばれたり、核酸からできているので核酸医薬と呼ばれたりしています。

デコイは、この核酸医薬の一種です。遺伝子は、転写因子がゲノムに着地してスイッチが入りますが、デコイは、そのゲノム上の転写因子結合部分と同じ配列を含む短い核酸(DNA)を人工的に合成したもので、体内に投与すると転写因子がゲノムに着地することを阻害して遺伝子の働きを抑えます。

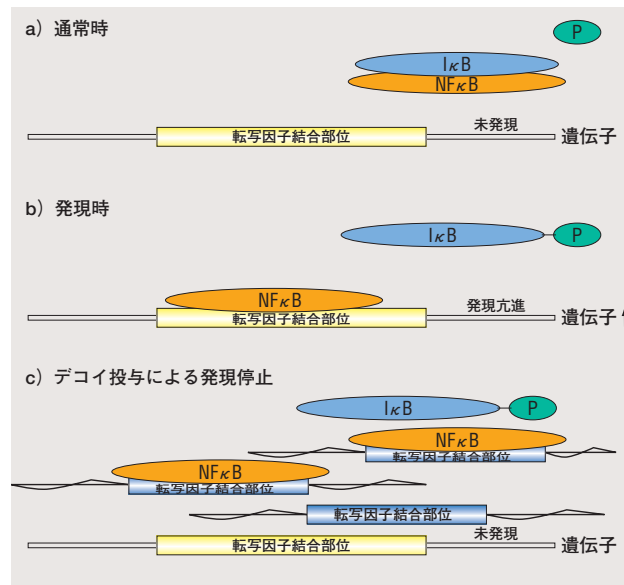
NF κ Bは、免疫反応を強める遺伝子のスイッチである転写因子で、このNF κ Bに対するデコイを作成することで、アトピー性皮膚炎、関節リウマチなど免疫反応を原因とする疾患を治療することができます。この治療法は、1995年に大阪大学の森下竜一客員教授により発明されました。現在、当社では、NF κ Bデコイオリゴの有効性や安全性などを動物実験等で確認する前臨床試験を実施しております。

なお、NF κ Bデコイオリゴについては、関節リウマチ及び変形性関節症分野において生化学工業株式会社と共同研究契約を締結しているほか、血管再狭窄予防^{※4}分野において株式会社グッドマンと業務提携をしています。

用語解説

※4 血管再狭窄予防
(血管の) 狭窄とは、血管が詰まり狭くなってしまうことです。動脈硬化により生じる冠状動脈などの狭窄は、主にバルーンカテーテルを用いた血管拡張術(いわゆる風船療法)により狭窄部位を広げる治療法が用いられています。しかしながら、この手法は、30~40%の症例において、(再度血管の詰まる)再狭窄が生じるという欠点があり、血管拡張術後の再狭窄を予防できる製品の開発が期待されています。

NF κ Bデコイオリゴの作用原理



医薬品開発の状況

| プロジェクト | 対象分野 | 地域 | 開発段階 | 提携等 |
|---------------------|----------|----|-------|-----------|
| HGF遺伝子治療薬 | 末梢性血管疾患 | 日本 | 臨床準備中 | 第一製薬株式会社 |
| | | 米国 | 第二相 | |
| | 虚血性心疾患 | 米国 | 臨床準備中 | |
| | パーキンソン | | 前臨床 | 未定 |
| NF κ Bデコイオリゴ | アトピー性皮膚炎 | | 臨床準備中 | 未定 |
| | 乾癬 | | 前臨床 | 未定 |
| | 関節リウマチ | | 臨床準備中 | 生化学工業株式会社 |
| | 変形性関節症 | | 前臨床 | |
| | 血管再狭窄予防 | | 臨床準備中 | 株式会社グッドマン |

3

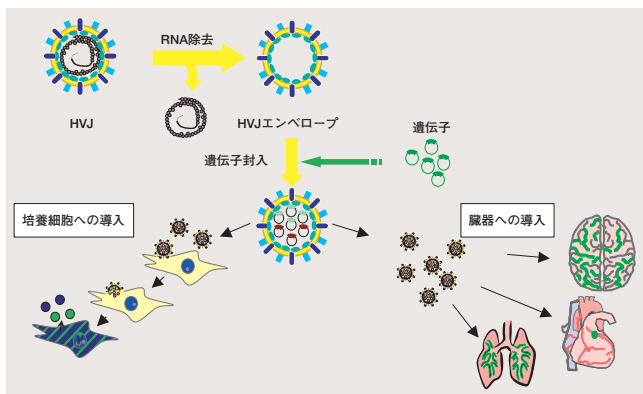
HVJエンベロップベクター

遺伝子が体内でうまく働くためには、細胞の中に入らなければなりません。遺伝子は、そのまま細胞に近づけても細胞の中に入っていきことはできないので、遺伝子治療薬には、細胞の膜を突破し、細胞の中に遺伝子を運ぶ役目をする優れたベクター（運び屋）が必要になります。

HVJ（Hemagglutinating Virus of Japan、別名センダイウイルス）は、1950年代に日本で発見されたウイルスです。このHVJのなかのゲノムを全て除去し、膜のみを用いるベクターとしてHVJエンベロップベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）の製造方法が、2000年に大阪大学の金田安史教授により発明されました。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞を融合（細胞融合）する作用があることから、遺伝子の細胞への導入効率が高く、しかもウイルスゲノムが全て除去されているため、人体への安全性も高いベクターです。これまでのベクターは、主にウイルス性ベクターと非ウイルス性ベクターに分けられますが、ウイルスの感染能力を利用するウイルス性ベクターは、導入効率は高

HVJ-E非ウイルス性ベクターによる遺伝子導入システム



いが安全性の面に問題があり、脂質材料の膜などによる非ウイルス性ベクターは、安全性は高いが導入効率の面に問題がありました。その意味では、HVJ-E非ウイルス性ベクターは既存ベクターの問題点が解決されているため、汎用性が高く、世界をリードするベクターになる可能性があります。

このベクターは、遺伝子治療薬への応用のほか、核酸医薬や蛋白医薬、さらに低分子化合物など従来からの医薬品に対しても、薬剤吸収を向上するドラッグデリバリーシステムとして有効である可能性があります。当社では、2002年11月、池田ラボ内にGMP（Good Manufacturing Practice、医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準）に準拠したプラントを完成しており、先端医薬品とともに、まずは全身投与では副作用が強い抗癌剤に応用することで、患部に効率的な送達ができる薬剤の開発を行う予定です。

また、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、創薬や診断薬に利用できる新規有用遺伝子を発見する研究に用いることができます。ベクターにより調べたい遺伝子を細胞や臓器に導入し、実際どのような影響が出るかを観察することで、新規有用遺伝子を見つけることができます。この分野では、既に提携先の石原産業株式会社から、2002年4月、遺伝子機能解析用キット「GenomONE®」が発売されています。さらに当社では、2002年7月に遺伝子探索研究を目的として連結子会社ジェノメディア株式会社（以下、ジェノメディア）を設立しています。この遺伝子探索に関しては、2003年3月に大阪大学の金田安史教授、株式会社島津製作所と提携し、効率的な遺伝子探索の研究体制を構築しています。

なお、HVJ-E非ウイルス性ベクター事業に関しては、2003年9月に会社分割制度を用いてグループ内の組織再編を実施しました。当社とジェノメディアに分散するHVJ-E非ウイルス性ベクター事業に関連する人材、資産、知的所有権を、ジェノメディアに集約化し、経営資源の効率的な利用と、経営判断の迅速化を目指します。

Consolidated Financial Statements

中間連結財務諸表

● 中間連結貸借対照表

| 科目 | 前中間期 | 当中間期 | 前期 |
|-------------|----------------|----------------|-----------------|
| | (平成14年6月30日現在) | (平成15年6月30日現在) | (平成14年12月31日現在) |
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 3,110,895 | 5,321,425 | 5,298,487 |
| 現金及び預金 | 2,372,032 | 3,499,308 | 3,829,508 |
| 売掛金 | 67,172 | 94,338 | 157,948 |
| たな卸資産 | 195,002 | 616,611 | 798,148 |
| 前渡金 | 397,313 | 966,879 | 360,514 |
| 前払費用 | 48,129 | 66,378 | 63,477 |
| 未収入金 | 30,645 | 13,942 | 12,757 |
| 立替金 | — | 64,074 | 73,490 |
| その他 | 757 | — | 2,982 |
| 貸倒引当金 | △158 | △108 | △341 |
| 固定資産 | 363,075 | 359,727 | 334,787 |
| 有形固定資産 | 213,907 | 217,930 | 202,714 |
| 建物 | 110,481 | 125,584 | 101,519 |
| 機械装置 | 44,019 | 24,403 | 31,638 |
| 工具器具備品 | 59,406 | 67,941 | 63,048 |
| 建設仮勘定 | — | — | 6,507 |
| 無形固定資産 | 82,366 | 92,397 | 85,821 |
| 特許権 | 80,892 | 86,875 | 83,411 |
| その他 | 1,474 | 5,522 | 2,409 |
| 投資その他の資産 | 66,801 | 49,399 | 46,251 |
| 投資有価証券 | 28,700 | — | — |
| 敷金保証金 | 36,687 | 41,582 | 40,895 |
| その他 | 1,413 | 7,816 | 5,356 |
| 資産合計 | 3,473,970 | 5,681,152 | 5,633,275 |

(単位：千円)

| 科目 | 前中間期 | 当中間期 | 前期 |
|-----------------|----------------|----------------|-----------------|
| | (平成14年6月30日現在) | (平成15年6月30日現在) | (平成14年12月31日現在) |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 2,009,759 | 1,557,688 | 1,146,983 |
| 買掛金 | 30,023 | 256,209 | 195,663 |
| 短期借入金 | 1,600,000 | — | — |
| 未払金 | 74,823 | 69,567 | 151,317 |
| 未払費用 | 10,848 | 4,316 | 5,692 |
| 未払法人税等 | 2,395 | 4,967 | 2,594 |
| 未払消費税等 | 19,947 | 14,218 | — |
| 前受金 | 242,978 | 1,200,919 | 787,573 |
| 預り金 | 10,978 | 6,644 | 3,643 |
| 賞与引当金 | 17,762 | — | — |
| 繰延税金負債 | — | 845 | 499 |
| 負債合計 | 2,009,759 | 1,557,688 | 1,146,983 |
| 少数株主持分 | | | |
| 少数株主持分 | — | 7,386 | 8,705 |
| 資本の部 | | | |
| 資本金 | 700,903 | — | 1,802,547 |
| 資本準備金 | 667,165 | — | 3,099,940 |
| 連結剰余金又は欠損金(△) | 100,122 | — | △420,693 |
| 為替換算調整勘定 | △3,979 | — | △4,208 |
| 資本合計 | 1,464,211 | — | 4,477,585 |
| 資本金 | — | 1,803,297 | — |
| 資本剰余金 | — | 3,100,690 | — |
| 利益剰余金 | — | △784,008 | — |
| 為替換算調整勘定 | — | △3,901 | — |
| 資本合計 | — | 4,116,077 | — |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 3,473,970 | 5,681,152 | 5,633,275 |

●中間連結損益計算書

(単位：千円)

| 科目 | 前中間期 | 当中間期 | 前期 |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| | (自平成14年1月1日 至平成14年6月30日) | (自平成15年1月1日 至平成15年6月30日) | (自平成14年1月1日 至平成14年12月31日) |
| 事業収益 | 980,215 | 1,274,769 | 1,794,715 |
| 事業費用 | 1,015,811 | 1,638,846 | 2,308,437 |
| 研究開発費 | 765,897 | 1,343,160 | 1,726,473 |
| 販売費及び一般管理費 | 249,913 | 295,686 | 581,963 |
| 営業損失 | 35,595 | 364,077 | 513,721 |
| 営業外収益 | 870 | 5,323 | 7,302 |
| 受取利息 | 168 | 80 | 296 |
| 為替差益 | — | 1,215 | 5,996 |
| 雑収入 | 702 | 4,027 | 1,009 |
| 営業外費用 | 2,845 | 1,709 | 48,988 |
| 支払利息 | 1,129 | — | 8,967 |
| 為替差損 | 1,489 | — | — |
| 新株発行費償却 | — | — | 38,981 |
| 雑損失 | 226 | 1,709 | 1,040 |
| 経常損失 | 37,570 | 360,463 | 555,407 |
| 特別利益 | 592 | 233 | 404 |
| 貸倒引当金戻入益 | 592 | 233 | 404 |
| 特別損失 | 707 | — | 3,866 |
| 固定資産除却損 | 707 | — | 3,866 |
| 税金等調整前中間(当期)純損失 | 37,685 | 360,230 | 558,869 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,507 | 4,059 | 3,212 |
| 法人税等調整額 | — | 343 | 521 |
| 少数株主損失 | — | 1,319 | 2,594 |
| 中間(当期)純損失 | 39,192 | 363,314 | 560,008 |

●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| 科目 | 前中間期 | 当中間期 | 前期 |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| | (自平成14年1月1日 至平成14年6月30日) | (自平成15年1月1日 至平成15年6月30日) | (自平成14年1月1日 至平成14年12月31日) |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △311,459 | △217,817 | △731,505 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △209,471 | △115,240 | △241,593 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,600,000 | 1,500 | 3,506,737 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △6,450 | 1,358 | △3,544 |
| 現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△) | 1,072,618 | △330,199 | 2,530,094 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,299,414 | 3,829,508 | 1,299,414 |
| 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 | 2,372,032 | 3,499,308 | 3,829,508 |

●中間連結剰余金計算書

(単位：千円)

| 科目 | 前中間期 | 当中間期 | 前期 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| | (自平成14年1月1日 至平成14年6月30日) | (自平成15年1月1日 至平成15年6月30日) | (自平成14年1月1日 至平成14年12月31日) |
| 連結剰余金期首残高 | 139,314 | — | 139,314 |
| 中間(当期)純損失 | 39,192 | — | 560,008 |
| 連結剰余金中間期末残高 又は欠損金期末残高(△) | 100,122 | — | △420,693 |
| (資本剰余金の部) | | | |
| 資本剰余金期首残高 | — | 3,099,940 | — |
| 資本剰余金増加高 | | | |
| ストックオプション行使による新株式の発行 | — | 750 | — |
| 資本剰余金中間期末残高 | — | 3,100,690 | — |
| (利益剰余金の部) | | | |
| 利益剰余金期首残高 | — | △420,693 | — |
| 利益剰余金減少高 | | | |
| 中間純損失 | — | 363,314 | — |
| 利益剰余金中間期末残高 | — | △784,008 | — |

Corporate Data

会社概要 (平成15年6月30日現在)

会社名: アンジェス エムジー株式会社
(英文名: AnGes MG, Inc.)

会社設立: 平成11年12月

決算期: 12月31日

資本金: 1,803百万円

従業員数: 62名

●事業所

本社

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町一丁目4番2号

千里ライフサイエンスセンタービル10階

池田ラボ

〒563-8577 大阪府池田市緑丘一丁目8番31号

東京支社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階



単体決算の概要

●中間要約貸借対照表

(単位: 千円)

| 科目 | 前中間期 (平成14年6月30日現在) | 当中間期 (平成15年6月30日現在) | 前期 (平成14年12月31日現在) |
|-----------------|------------------------|------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 3,086,961 | 5,271,058 | 5,232,627 |
| 固定資産 | 405,429 | 435,499 | 413,631 |
| 資産合計 | 3,492,391 | 5,706,557 | 5,646,259 |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 2,019,162 | 1,583,246 | 1,159,334 |
| 負債合計 | 2,019,162 | 1,583,246 | 1,159,334 |
| 資本の部 | | | |
| 資本金 | 700,903 | — | 1,802,547 |
| 資本準備金 | 667,165 | — | 3,099,940 |
| その他の剰余金又は欠損金(△) | 105,159 | — | △415,563 |
| 資本合計 | 1,473,228 | — | 4,486,924 |
| 資本金 | — | 1,803,297 | — |
| 資本剰余金 | — | 3,100,690 | — |
| 利益剰余金 | — | △780,676 | — |
| 資本合計 | — | 4,123,311 | — |
| 負債資本合計 | 3,492,391 | 5,706,557 | 5,646,259 |

●中間要約損益計算書

(単位: 千円)

| 科目 | 前中間期 (自平成14年1月1日 至平成14年6月30日) | 当中間期 (自平成15年1月1日 至平成15年6月30日) | 前期 (自平成14年1月1日 至平成14年12月31日) |
|-----------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 事業収益 | 980,215 | 1,274,769 | 1,794,715 |
| 事業費用 | 1,012,982 | 1,642,775 | 2,303,701 |
| 営業損失 | 32,767 | 368,006 | 508,985 |
| 営業外収益 | 859 | 5,875 | 4,743 |
| 営業外費用 | 4,792 | 1,709 | 48,171 |
| 経常損失 | 36,700 | 363,840 | 552,414 |
| 特別利益 | 592 | 234 | 404 |
| 特別損失 | 521 | — | 3,836 |
| 税引前中間(当期)純損失 | 36,629 | 363,606 | 555,845 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,507 | 1,507 | 3,014 |
| 中間(当期)純損失 | 38,136 | 365,113 | 558,859 |
| 前期繰越利益又は 前期繰越損失(△) | 143,296 | △415,563 | 143,296 |
| 中間未処分利益又は 中間(当期)未処理損失(△) | 105,159 | △780,676 | △415,563 |

Stock Information

株式の状況 (平成15年6月30日現在)

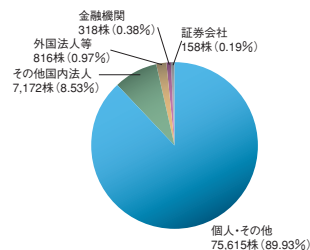
| | |
|--------------|----------|
| 会社が発行する株式の総数 | 246,976株 |
| 発行済株式の総数 | 84,079株 |
| 株主数 | 11,603名 |

●大株主の状況

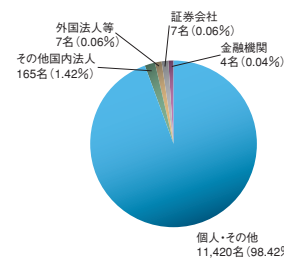
| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|--|---------|--------|
| 森下 竜一 | 13,185株 | 15.68% |
| 中村 敏一 | 7,601株 | 9.04% |
| 有限会社イー・シー・エス | 5,113株 | 6.08% |
| バイオフィロンティア・グローバル投資事業組合 業務執行組員 株式会社バイオフィロンティアパートナーズ | 3,340株 | 3.97% |
| 小谷 均 | 2,600株 | 3.09% |
| 森下 翔太 | 2,400株 | 2.85% |
| 森下 真弓 | 2,400株 | 2.85% |
| 富田 憲介 | 2,307株 | 2.74% |
| 小谷 希美子 (常任代理人 小谷 均) | 1,600株 | 1.90% |
| 坂田 三和子 | 1,500株 | 1.78% |

●所有区分別 株式分布状況

株式数 合計 84,079株



株主数 合計 11,603名



●役員

| | |
|---------|-------|
| 代表取締役社長 | 山田 英 |
| 取締役副社長 | 小谷 均 |
| 取締役 | 森下 竜一 |
| 取締役 | 中村 憲史 |
| 取締役 | 榎 史朗 |
| 常勤監査役 | 池田 勉 |
| 監査役 | 遠山 伸次 |
| 監査役 | 菱田 忠士 |

●アンジェス エムジーグループ

| 会社名 | 資本金 主要な事業内容 | 当社持株比率 |
|-----------------|--|--------|
| アンジェス インク | 100千米ドル 米国での遺伝子医薬品の臨床開発 | 100.0% |
| アンジェス ユーロ リミテッド | 50千英ポンド 欧州での遺伝子医薬品の臨床開発 | 100.0% |
| ジェノメディア株式会社 | 40,000千円 遺伝子治療用ベクター及びドラッグデリバリーシステムの研究開発、治療用及び診断用の新規有用遺伝子の探索 | 71.8% |



●株主メモ

決 算 期 12月31日
定時株主総会 3月中
基 準 日 12月31日(利益配当金) 6月30日(中間配当金)
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話03-5683-5111 (代表)
同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社本店及び全国各支店
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス
http://www.anges-mg.com/ir_financial.htm

ホームページを
ご覧ください。

最新のニュースリリースやIR資料
などを掲載しております。
ぜひご覧ください。

ホームページアドレス
<http://www.anges-mg.com/>



この中間事業報告書に関するお問い合わせ先
東京支社 03-5730-2753